

# 仮設住宅の個人訪問禁止に

## 大船渡での活動は、新たな展開へ

いつもお祈りとご支援感謝致します。岩手では、16日から梅雨に入りました。相変わらず2日に1回くらい体で感じる規模の余震（震度3〜4）があります。また今月下旬の台風4号は、県内は大きな被害はなかったようで、守られて感謝でした。

さて、大船渡市は被災者が仮設住宅へ入居し始めてから1年が経ちました。毎月のように、何が必要なのかというものが変化してきた仮設住宅ですが、今月は大きな変化があったように感じました。それを感じた理由は、何人かの仮設住宅支援員から口頭で「個人訪問禁止」と言われたからでした。

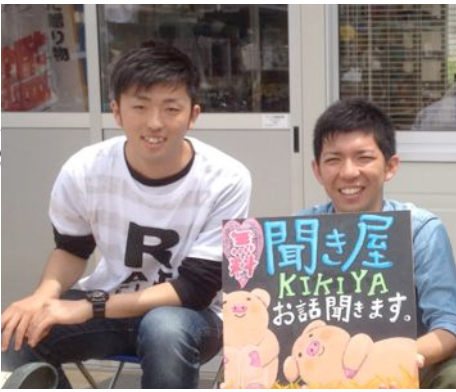
支援員の説明では「仮設住宅の集会所や談話室でのイベントはいいが、個人の部屋に入るのはやめてほしい」とのこと。これは各仮設住宅によって異なります。



← イベントの様子



個人訪問禁止の理由は、「知らない人が家に入ると疲れる」「部屋が狭い」などと私は予測しますが、はっきりとした理由はわかりません。私たちが、仮設住宅の個人宅訪問を始めたキッカケは、私たちが進んで皆さんのお家に入ったというより、「どうぞ入って」「お茶でも飲んでって」という仮設住宅の住民の方のご好意から始まったものでした。去年は、一緒にお茶をしながら津波のお話を聞く傾聴ボランティアもしていましたし、皆さんの声を受け止めるという必要性があったのかもしれない。こう書くと語弊があるかもしれませんが、震災から1年以内は「細かいことを気にしない。気にしてられない」雰囲気があったと感じますが、震災から1年3ヶ月経った現在は、「細かいこともきちんとして、震災前に戻ろうとする」雰囲気を感じます。これは、いいことかもしれませんが、また、被災者の方が疲れているようにも感じます。慌ただしく過ごした1年をすぎ、疲れが出ている時期なのかもしれません。とにかく詳しくはわかりませんが、現状として、「個人訪問はしないで」と言われています。私は、自分が今までやってきたことを否定された気がして、少し落ち込んだりもしましたが、今は元気を取り戻しています。そして、私たちチームはこの現状をプラスにとらえようとしています。これからは、イベントでコミュニティづくりをしたり、大工や引っ越しのお手伝いなどの他の活動もしていきたいと考えています。



6月8日に大船渡市の「おおふなと夢商店街」の朝市で、聞き屋を初めて行いました。今までは、仮設住宅で被災した方のお話を聞く機会はありませんでしたが、今回は大船渡市に住む全ての方を対象にして、お話を聞けたらと思い、路上に出ました。みなし仮設に住まれている方、家は流されなかったが心を痛まれている方、がれき撤去の作業員の方、ボランティアの方など色々な方に出会えるようお願い下さい。商店街の朝市主催者の方からは、「来月の七夕のイベントでも聞き屋やらないか」と誘っていただきました。「僕たち、ここにいていいのかな」と不安を感じながらやっていたのですが、主催者側から声をかけていただいたので、喜んでいきます。また6月27日には釜石駅近く（写真中央）でも聞き屋を行いました。こちらでは、釜石のクリスチャンの方や牧師先生とも協力して、やっていく予定です。みなさん「この街には、聞き屋が必要だ」と考えておられます。聞き屋をするメンバーも与えられて本当に感謝です。街の必要があるかぎり、これからも続けていきたいと思えます。

## 「岩手沿岸部の働き人の祈り会」に参加で、広がるつながり

6月14日に釜石市で「岩手沿岸部の働き人の祈り会」が開催され、CCMN 大船渡チームからは僕を含め3名が参加しました。今回は、岩手県北部の野田村から県南部の陸前高田市まで地域から、OMF、東北ケア、3.11いわて教会ネットワーク、沿岸部の牧師先生などの現在も活動をしているクリスチャン団体や先生方が参加されていました。自分たちの活動を紹介したり、実際の祈りの課題を分か



ちあい、祈りあいました。当日行った時は、僕たちは初めての方ばかりだったので、ガチガチに緊張していましたが、段々と仲良くなり祈り会後は、参加者の何名かで夕食も食べに行けて楽しい一時を過ごす事ができて感謝でした。

祈り会では、私たちはキリストの体として聖書に書いてあるように、「一致」していくことが大事だと、アメリカ人のリーダーが聖書を開きながら話していました。岩手県の教会では、今まで横のつながりがあまりなかったと聞きました。震災がきっかけとなり、団体などの枠を越えて、協力していこうという雰囲気がありました。これは岩手では新しいことだと思います。

実際後日22日には、祈り会で知り合った3.11いわて教会ネットワークの大船渡チームのところで、家のリフォームのお手伝いをしました。つながるだけでなく、実際に一緒に活動もできて、感謝でした。30日にもイベントを手伝いに行きます。

# ルームメイトのトモアキから熱いコメント！



こんにちは（^▽^）沖縄県からボランティアに来ている朝旭です。aikoが大好きな22歳です。僕がボランティアに行こうと思ったきっかけについて話をします。僕はボランティアに行く前は沖縄県で保育士をやっていました。震災が起こった時も仕事をしており、震災の事を知ったのは地震発生から数時間経ってからでした。その時の自分は『遠い所で大変なことが起きているな。』という思いしかなく、まるで他人事のように震災を捉えていました。しかし、日が経つにつれて被害の深刻さを知り、他人事のように震災を捉えていた自分に憤りを感じ、恥ずかしく思うようになり、ボランティアに行く事を決意しました。1年後には仕事を辞めて、知り合いから知行くんが岩手県で支援活動を行っている事を聞き、無理を承知でお願いをしたところ快く受け入れてくれ、今に至ります。岩手での活動は毎日が刺激的で、沖縄では経験出来なかった事がたくさんあります。中でも被災者の方と実際に交流を持つことはとても貴重な体験です。震災当時の話を聞くと胸を締め付けられるような思いと同時に自分の力を役立てたいという気持ちが湧いてきます。僕の力はとても微弱なものかもしれませんが、しかし、被災地の復興のため、被災者が少しでも気持ち良く日々の生活を過ごせるように頑張っていきたいと思います。

受け入れ状況	6月5～10日	香港からチーム	今後の活動予定	7月6日	大船渡・陸前高田働き人の祈り会
	6月17～24日	CCMN 短期宣教チーム（香港）		7月7日	キッズケ家（釜石）聞き屋（大船渡）
	6月18～22日	石川県からチーム		7月8日	聞き屋（大船渡）
	6月25～27日	関東からチーム		7月24～31日	CCMN 短期宣教チーム（香港）

## 祈りの課題

- ・ 大船渡と陸前高田の働き人で、祈り会をすることとなりました。祈り会がよい時間となり、参加者がよい関係を作れて仲良くなれるようにお祈り下さい。
- ・ 大船渡での新しい働きのためにお祈り下さい。街や地域の人とも関わるチャンスがたくさん与えられるように。
- ・ 岩手に来る短期宣教チームと、それを受け入れる大船渡チームの健康のためにお祈り下さい。

瀬 知行 山口県出身 平成元年8月9日生まれ 22歳 国内宣教師&保育士

瀬知行を支える会の住所：山口県山口市大内長野 633-1

ブログ：「ともだちだよブログ」<http://blog.livedoor.jp/tomotomodati/>

## 支援献金の方法

私の活動は皆様の支援献金によって支えられています。経済的支援にご協力して下さる方はお手数ですが、以下のいずれかの方法で口座にお振込下さい。

ゆうちょ銀行口座番号：01350-2-99626 名義：瀬知行を支える会  
他行からの振込 店名（店番）一三九（イチサンキュウ）（139）  
預金種目：当座 口座番号：0099626「瀬知行を支える会」  
郵貯振替口座番号：01350-2-99626 名義「瀬知行を支える会」

## おすすめ本のコーナー



「震災トラウマと復興ストレス」  
（岩波ブックレット） 著：宮地尚子  
525円と安いし、薄いから読みやすいです。被災者向けというより、支援者や被災地以外に住む人に向けて書かれています。今までにない本でした。